

1. 最近のニュースや話題から徒然に

▽予期しない事態の対応策を脳みその片隅に置く△

恐ろしいことです。将来を担う 18 歳と 19 歳を対象に「日本が終戦を迎えた日を知っているか」とNHKが調査をしたところ、14%が「知らない」と答えたと言うのです。

同じく「今の日本が平和だと思うか」との間には 74%が「思う」、25%が「思わない」。「思う」理由は、「戦争をしていない」50%、「治安が良い」41%の答えでした。これは 9 日のNHKニュースで報道されていたので、耳にした方もおられると思います。

さて次の話題は北朝鮮の核とミサイル開発問題。金正恩委員長は世界各国の圧力をもろとせず、ただひたすらに核とミサイルの開発に邁進。日本にも核弾頭を積んだミサイルが打ち込まれるかも知れません。

こんな事実を見聞きすると、「日本人は平和ボケをしているな～」と嘆息してしまいます。安倍首相の舵取りの拙さから政治が不安定化していますが、政治の世界では“常在戦場”という言葉が飛び交っています。

経営者は多種多様な経営環境の下、会社を未来へ繋げていく努力を行っています。会社経営に多大な影響を与える制約条件のうち、内なるものは 55%、外なるものは 45%と言われています。仮に外から寄せてくるリスクに何も対応できていないと売上は 45%もダウンするかも知れません。こうなれば会社は一挙に倒産への道をひたすら進んでいくだけになります。

“常在戦場”、経営者は常に戦いの場にあります。社外からのリスクを感知し、緻密に分析し、即時対応できる体制作りをしておく必要があります。

「歴史は繰り返される」「歴史から学ぶ」。誰もが知っている格言です。2011 年 3 月 11 日から「想定外」が通俗語になっていますが、「想定外を想定内」にする強い意思が経営者には求められています。

2. 継続的な繁栄（継栄）を目指して

○雑草の如くしっかりと根を張る○

私は出が農民であることから、自分の家の庭に生えている雑草が繁茂するのが気にかかってしょうがありません。

雑草の種は水や陽光が発芽の条件に適合するまで何十年の地中に埋まっているのです。ということで、「発芽して子孫を残したい」という雑草の積年の想いが地中に浸み込むのか、雑草は中々取れません。

自社の従業員もこうありたいものですね。中々成績は上げることが出来ないものの、失敗から学び、小さな成功体験を積み重ねてある日突然と大輪を咲かす。このような従業員が続出して欲しいものです。

その為にはしっかりと根を生やしきれぬ栄養分豊富な大地が必要です。栄養素が少ない固い土では雑草は芽を出しにくいでしょう。挑戦を良しとする風土、従業員同士が支えあう組織、成功を皆で喜ぶ仲間達。会社の経営者はこのような組織風土を地道に作り上げていかななくてはなりません。

3. お役立ち瓦版～本の紹介～

[京都大学の経営学講義 いま日本を代表する経営者が考えていること（ダイヤモンド社）]には、5社の経営者が京大生等に語った講義録がまとめられています。

その中でカルビー(株)の松本晃会長の講義録にはぐっと引き込まれました。カルビーはかっぱえびせんをはじめ、スナック菓子業界のトップ企業です。この分野では二番手企業の 6 倍強の売上をほこっています（営業利益率は 1.5%から 11.4%へ）。

しかし、松本会長がジョンソン&ジョンソンからヘッドハンティングされ会長兼CEOに就任した平成 21 年時点では 3 倍強だったそうです。強力なリーダーシップを発揮し、企業風土を刷新してきました。

「Change, or Die!」。「変革する気がないのなら死んでしまえ」というテーマでの講演。腹落ちする言葉が満載です。